【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-504661(P2005-504661A)
【公表日】平成17年2月17日(2005.2.17)
【年通号数】公開・登録公報2005-007
【出願番号】特願2003-534164(P2003-534164)
【国際特許分類】
Ｂ２９Ｃ　47/40　(2006.01)
Ｂ２９Ｋ　21/00　(2006.01)
Ｂ２９Ｋ　23/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ２９Ｃ　47/40　Ｚ
Ｂ２９Ｋ　21:00
Ｂ２９Ｋ　23:00

【手続補正書】
【提出日】平成17年10月11日(2005.10.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
一緒に回転する二つのスクリューの押出機内で熱可塑性ポリオレフィン、架橋性ゴム及び硬化剤を溶融かつ混合し、それにより架橋性ゴムが混合の間に硬化されることを含む動的架橋された熱可塑性エラストマーの製造方法において、
tr<40秒間
Espec/tr≧24kW/kg
tr/(L/D)<0.60秒
(ここで、trは押出機内での滞留時間を意味し、Especは押出機内での比エネルギーを意味し、(L/D)は押出機内のスクリューの長さ/直径比を意味する)
であることを特徴とする方法。
【請求項２】
押出機内での滞留時間が30秒間より短いことを特徴とする請求項1記載の方法。
【請求項３】
スクリュー速度が少なくとも700rpmであることを特徴とする請求項1又は2記載の方法。
【請求項４】
スクリュー速度が少なくとも900rpmであることを特徴とする請求項1～3のいずれか一つに記載の方法。
【請求項５】
熱可塑性ポリオレフィンが、エチレン若しくはプロピレンのホモポリマー又はエチレンとプロピレンとのコポリマーであることを特徴とする請求項1～4のいずれか一つに記載の方法。
【請求項６】
架橋性ゴムがEPDM又はEPMであることを特徴とする請求項1～5のいずれか一つに記載の方法。
【請求項７】

ゴムが、80%を超えるゲル含有量に架橋されることを特徴とする請求項1～6のいずれか一つに記載の方法。
【請求項８】
ゴムが、95%を超えるゲル含有量に架橋されることを特徴とする請求項7記載の方法。
【請求項９】
動的架橋された熱可塑性エラストマーが、5～35重量%の熱可塑性ポリオレフィンを含むことを特徴とする請求項1～8のいずれか一つに記載の方法。
【請求項１０】
動的架橋された熱可塑性エラストマーが、95～65重量%の架橋性ゴムを含むことを特徴とする請求項1～9のいずれか一つに記載の方法。